令和８年度

入学試験問題

国　語（50分）



注意

１．解答時間は５０分です。

２．問題は１２ページあります。

３．解答は別紙の解答用紙に書きなさい。

４．開始の合図で，解答用紙に受験番号を書きなさい。

５．問題冊子は持ち帰りなさい。

金沢学院大学附属第二高等学校

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

綾峰高校に通う高校一年生の渡辺六花は、過去の病気の影響で歩くことができなくなり、車いすを使って生活している。六花はこの高校の伝統行事で、生徒が四十キロの道のりを歩く『青嵐強歩』という行事への参加をめぐって葛藤していた。その思いを、同級生の荒谷伊澄が聞いている場面である。

「本当は誰にも迷惑なんてかけたくないよ、私だって。自分のことは全部自分でやって、好きな時に好きな場所に好きなように行きたい。段差も坂道も気にしないで階段しかないところにも出かけていきたい。歌いたい。踊りたい。①色んな人を演じて大雨みたいな拍手をもらいたい、ステージの上で。毎日毎日そう思うの。こんなの私じゃない。今まで何でも自分で決めてひとりの力でやってきたのに、誰かに助けてもらわなきゃ生きていくこともできないなんてこんな私は私じゃない、本当の私に戻りたいって。だけど、もうどうしようもないから、②今はこの私が本当の私なんだから、がんばろうって思うの。でも夜にはまた、どうしてなの、時間を戻して、戻りたいって―毎日、毎日、それのくり返し」

リビングにはレースのカーテンをかけた大きな窓があり、そこから射しこむ夕暮れの光が、六花を照らしていた。頬のa輪郭線が淡いオレンジ色にかがやき、繊細な産毛が光っている。うつむき加減のその姿が、とても深いかなしみを帯びている。

何かを言わなければいけないと伊澄は口を開いたが、息の音しか出てこなかった。

『私、そういう人たちにどうしてあげたらいいのか、わかんないの』

六花を傷つけないように青嵐強歩を諦めさせてくれと頼んできた小沢が、苦しそうにこぼした言葉を思い出す。今なら、彼女がああ言った気持ちがわかる。

六花がつらい気持ちでいる。それはわかるのに何も言葉が出ないのは、自分はきっと何もわかっていないという引け目があるからだ。良かれと思ってかけた言葉が実は見当外れで、それによって六花を傷つけてしまうのではないかと怖いからだ。実際、自分は何もわかっていないのだと思う。本当は少しばかり六花を理解しているつもりでいた。だけどたった今、③自分の「理解」なんてほんの表面をなでるくらいのものでしかなかったのだとわかった。自分にはわからない。六花の抱える苦しさが本当にはどんなものなのか、どれほどのものなのか。どんな言葉が彼女の心に届き、どんな行動が本当の意味で彼女の助けとなるのか。情けないくらい、何も、わからない。

―だけど、わからないからといって、黙り込んだままではいられないのだ。

彼女が唇を噛んで必死に耐えている今この時に、何もできず、何も言えないのだとしたら、自分が今ここにいる意味なんてない。

「もし―現実はそうじゃないんだけど、それでも、もし俺と渡辺さんが逆だったら。俺が車いすユーザーでも学校のめちゃくちゃ歩くイベントに出たいって言ったら、渡辺さんはそれ、迷惑だって思う?」

六花が少しだけ顔を上げ、前髪の隙間(すきま)から赤くなった目を向けてきた。

「思わないよ。でもそれは、現実には私が車いすユーザーだからで、だからそれがどういう気持ちかわかるから、迷惑って思わないだけの話だよ」

「確かにそうかも。現実には、俺は中学の時のけがも運よく治った、普通に歩けて百メートルもそこそこのタイム出せる健常者だし。けど、渡辺さんが青嵐強歩に出たいって思うことを、迷惑とかわがままとは思わない。それはどうしてかっていうと、俺が渡辺さんのこと、いくらか知ってるからだと思う。学級委員になるのを遠回しにやめとけって言われた時、腹を立てたり責めたりするんじゃなくて、［　X　］って渡辺さんは言った。あの時だけじゃなく、車いすを使ってる渡辺さんと、そうじゃない俺たちが一緒にいる毎日の中で、俺たちに気を配って、でも自分の気持ちもしっかり声をあげて伝えて、俺たちにとっても、渡辺さんにとっても、少しずつ何かが良くなるように努力してる。俺はそういう、いつも闘(たたか)ってる渡辺さんを知ってる。青嵐強歩のことも、イベントに出るか出ないかだけの話じゃなくて、そのもっと向こうにあるものにつながる話なんだって知ってる。だから俺は、迷惑とかわがままなんて思わないんだと思う。俺も何かを手伝いたいって、思うんだと思う」

六花の目がゆっくりと大きく開かれ、水のbマクを張り、ゆらめいた。だけど気丈な彼女は、こみ上げたものをあふれさせることを良しとせず、口元と目に力を込める。

そんな意地っ張りで、いつも自分の力で立とうとする意志を捨てない彼女が好きだ。

「注1火曜日の朝に聞いたこと、やっぱり傷ついたと思う。あの時は俺もろくなこと言えなくて、ずっと引っかかったままだった。でも、俺に渡辺さんのこと言ってきたあの人たちも、渡辺さんが嫌いなわけじゃない。『何かあった時に責任とれない』って言い方してたけど、つまり、怖いんだよ。車いすユーザーが困ってたらどうすればいいのか、自分にそれができるのか、もし何かやばいことが起きたらどうしたらいいのか、どれもよくわからないから、なんか怖い。自分がよくわかってないせいで相手を傷つけたり失敗したりするんじゃないかって怖い。だけど、逆にそれがわかれば、怖くなくなると思う。怖くなくなったあと、その次に来るのが『面倒だから関わりたくない』とかだったら、それはもう仕方ない。違う人間同士なんだから全員とわかり合うのは無理だ。でもまだ

そうやって『仕方ない』って済ませる段階じゃないと思うから、決めるのは待って。④俺に時間をくれないか」

「…どうして？　どうして、そんなにしてくれるの？」

幼げな表情で眉根をよせる彼女に、どう言えばいいのか考える。胸のなかに名前のないまま咲いているものを、どんな言葉なら形にできるのか。

「初めて会った日、入学式の日に、渡辺さんは俺に『私は車いすじゃなくて人間です』ってめちゃくちゃ喧嘩腰に言ったけど」

「失礼ね、別に喧嘩腰じゃなかったでしょ」

「⑤あれから、なんか俺の世界、カラフルになったんだ」

今ふり返ればわかる。あの時までの自分が、どれほど閉ざされていたか。

耳にイヤホンを突っこんで、ガンガン音楽を流して、どこで誰が苦しんでいようと無関心だった。注2速水と一緒に情熱を根こそぎ失ってしまって、もう何ひとつ本気にならないとc斜に構えながら、息苦しい一日一日をやり過ごしていた。

あの時、自分の世界は白黒映画みたいに色褪せていた。だからこそ、自分自身であるために闘う彼女が、とても色あざやかに見えた。

「前の俺は『あんた車いすなのに』って深く考えずに言うようなやつだったけど、今はトイレのドアが内側に開くタイプだったりすると『これ車いすユーザーってどうするんだろう』って思ったりする。そういう風に、自分とは違う、色んな人がこの世界にはいるってことを、前よりも少しだけ知ってる。前までは自分のしようとすることがdジャマされるとすぐにイラッとしてたけど、今は、色んな違う人たちが共同生活してるんだからそういうこともあるなって思う。俺、前の俺よりもまるくなったし、人間が好きになってると思う。それで俺は、今の俺のほうが好きなんだ」

「そういうのは、荒谷くんが自分で変わったからだよ。別に私、何もしてない」

「渡辺さんは何もしてないつもりかもしれない。でもやっぱり、渡辺さんに会ってなかったら、今の俺はこうじゃなかった」

変わるきっかけを与えてくれたのは、まぎれもなく彼女だ。

自分が犯した罪の話に耳を傾け、神様が開けてくれた窓が見つかるといいと笑ってくれた。

「俺は渡辺さんからもらったものがある。だから、今度は俺が渡辺さんにそれを返したい」

⑥六花の黒目の下に透明な水がふくらんで、頬に光のすじを描きながら流れ落ちた。

（阿部暁子『カラフル』より）

注1 火曜日の朝に聞いたこと…伊澄がクラスメイトから、「六花に青嵐強歩を辞退するよう促す」よう伝えられたこと。

注2 速水と一緒に情熱を根こそぎ失ってしまって…「速水」は伊澄の中学生時代の陸上部のチームメイト。彼は思うように記録を伸ばせなかったうえ、伊澄とのトラブルの中で、伊澄に選手生命に関わるケガを負わせてしまった。速水は陸上部を退部してしまい、伊澄もケガによって陸上への情熱を失った。

(一) ═══線部**a**～**d**について、漢字は**ひらがな**に、カタカナは**漢字**に直して書きなさい。

(二) ═══線部①「色んな人を演じて大雨みたいな拍手をもらいたい、ステージの上で」の部分に使われている表現技法として、ふさわしいものを次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法　**イ** 倒置法　**ウ** 体言止め　**エ** 隠喩

(三) ═══線部②「今は」が直接かかるのはどの言葉か、文章中から一文節で抜き出して答えなさい。

(四) ═══線部③「自分の『理解』なんてほんの表面をなでるくらいのものでしかなかったのだとわかった」とあるが、このときの伊澄の心情として、ふさわしいものを次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 納得　**イ** 落胆　**ウ** 共感　**エ** 決意

(五) X にあてはまるのにふさわしい言葉を、次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私が学級委員になると、やっぱり迷惑をかけてしまうんだね
イ 車いすユーザーだから、学級委員ができないと思わないで
ウ 私はどうしても、学級委員をやらなくてはならないのよ
エ これから自分のことをみんなに知ってもらえるようにがんばる

(六) ――線部④「俺に時間をくれないか」とありますが、伊澄はなぜ時間がほしいと思ったのですか。その時間で伊澄がしたいと考えたことをふまえて、**六十字以内**で答えなさい。

(七) ――線部⑤「あれから、なんか俺の世界、カラフルになったんだ」とありますが、これはどういうことですか。その後にある「白黒」という表現もふまえながら、**七十字以内**で答えなさい。

(八) ――線部⑥「六花の黒目の下に透明な水がふくらんで、頬に光のすじを描きながら流れ落ちた」とありますが、これは六花のどのような心情を表していますか。本文全体の内容をふまえつつ、説明としてもっともふさわしいものを、次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 車いすユーザーである自分について知ろうとすることをきっかけに、周囲の世界に強く関心をもち始めた伊澄への共感。
イ 六花との出会いをきっかけに、自分と違う人間を理解しようとし始め、六花自身の力にもなろうとしている伊澄への感動。
ウ 六花が不自由なく生活できるよう、どんな困難でも立ち向かうことを決心してくれた伊澄に対する感謝。
エ 六花が青嵐強歩に出るために伊澄が力になってくれるからこそ、伊澄に迷惑をかけるわけにはいかないという意気込み。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは時として「あの人は正直な人だ」と、その人の立派さを認めて言うことがあります。それはどういう人のことでしょうか。

ドイツの教育哲学者であるオットー・ボルノー（一九〇三～九一）は、「率直」と「正直」を区別し、「率直」が「まだ特別なX内面性を形成し遂げる以前の状態にある」のに対して、「正直でありうるのはつねに、自分自身に対してとらわれず自由な態度をとるか、それとも自分自身を見捨てるかという二つの可能性を自らのうちにもっているような存在だけである」と述べています。

まず、「率直」であるというのは、ごまかしや嘘（うそ）がなく、自分が信じていることをそのまま言い、自分が信じていることと言っていることとが一致していることです。「絶対に嘘をつかない人」として先に見たようなあり方は、この意味で「率直」だとは言えます。ボルノーによれば、このような率直さは「まだ特別な内面性を形成し遂げる以前の状態にある」のであり、つまりは、まだ嘘をつくことのできない子どもに見られる状態です。他人に対する不信を知らず、内面を隠すことを知らない状態であり、事実として嘘をついていないとしても、「嘘はつかないぞ」という意志を自らで働かせたわけではありません。

「嘘はつかないぞ」という自発的な意志を働かせるためには、嘘をつく能力を身につけている必要があります。内面を隠したり、他人を騙（だま）す意図をもったりすることができる限りで、「嘘はつかないぞ」という決断もできるのです。つまり、嘘をつかないという自発的な意志を働かせるためには、自分の都合が悪くなれば嘘をつくaユウワクにかられてしまったり、本当のことを言ったら周りにからかわれると分かれば嘘をついてその場をしのぐ技術をもっていたりしなければなりません。自分が信じていることを隠しておくことができなくてはならないのであり、つまり、ボルノーの言うように「①特別な内面性を形成し遂げている」必要があります。単に「率直」なのではなく「正直」であるためには、社会がどういうところかをある程度認識しており、ある状況に陥れば嘘へとユウワクされるような心の側面をもっていなければならないわけです。

実際、「あの人は正直だ」とb賞賛を込めて言われる人は、全く注1無垢（むく）な人ではなく、普通の人であればつい嘘をついてしまうような場面でも、ぐっと思いとどまってそうしない、そういう精神的な力をもっている人でしょう。嘘をつけば利益を得られそうな場面、嘘をつけば不都合な状況を取りc繕うことができそうな場面、あるいは、嘘をつけば表面的には人間関係を維持できそうな場面で、やっぱり、嘘をつくのは止めようと思いとどまり、自分が信じていることを正直に言ったり、相手とオープンに話し合うために努力したりする人でしょう。

ボルノーの言葉に戻りましょう。正直な人は、「自分自身に対してとらわれず自由な態度をとるか」、「自分自身を見捨てるのか」という二つの可能性の間で葛藤する存在です。このような心の葛藤を経験できるということは、正直に本当のことを言うか、嘘をついてその場をしのぐか、というジレンマに立てることだと言い換えてもよいでしょう。

しかし、なぜ、嘘をついてその場をしのぐことは「自分自身を見捨てること」であり、本当のことを言うことは「自分自身に対してとらわれず自由な態度」を取ることなのか。本書のこれまでの内容から考えてみましょう。

注2第二章で害説の検討をした時に、②嘘をつくことは他人だけでなく自分自身も苦しめるという点を確認しました。嘘をつくと、「嘘をついた」と相手に言うことができず、（　Ⅰ　）、一度嘘をつくとその嘘と注3辻褄（つじつま）の合うように嘘を重ねるしかなくなります。言いかえれば、自分自身が相手にやったことや思ったことについて相手と自由に話すことができなくなり、どれほど後悔しても嘘をつく前には戻れないという苦しみがあります。（　Ⅱ　）、成り行きに振り回され、自由を失い、自分が望むように振る舞えなくなってしまうのです。ここで、自分の気持ちを押し殺し、苦しみのなかに自分を閉じ込め、偽りのない人間関係を取り戻す希望も失ってしまうとすれば、ボルノーが言う「自分自身を見捨てる」ことになるでしょう。

しかし、嘘のせいで自分自身を見捨てそうになっても、私たちには「自分自身に対してとらわれず自由な態度」をもつ可能性も残されているとボルノーは述べています。友達と遊んでいたらつい楽しくなって恋人との約束に遅れてしまった時、自分の不都合を取り繕うために何気なくついた嘘が大きな嘘になってしまい、恋人に悪いと思ってもあれは嘘だったと言えない時、自分の思っていることや自分が今日したことなどをオープンに話せる仲がどれだけ貴重であるかが身にしみるでしょう。その気持ちに忠実になるなら、どんなに謝ることになっても、あるいは呆（あき）れられることになっても、本当のことを話そうという勇気をもてるかもしれません。そして話してみたら、恋人は呆れることも、謝ることを求めることもなく、「気にしないでいいよ」と言ってくれるかもしれません。その時には、相手はどうせ怒るだろうと決めつけていた自分の小ささに恥ずかしくなるかもしれません。自分自身に対して自由な態度をもつということは、さまざま思い込みや恐れにとらわれずに、自分に素直に、自分らしくあろうとすることだと言えるでしょう。

嘘をついて自分を失ってしまう可能性と自分に忠実に自分らしくある可能性の間で、葛藤できる心（内面性）をもっていることが、正直であることには必要です。正直であるために必要なのは、③裏表がないことではなく、嘘をつきたくなるときにぐっと思いとどまる意志であり、嘘をついてしまった時にも本当のことを話そうとする意志を失わないことで

す。以上のことから興味深いことに気づかされます。正直であることは、一方で他人に対して嘘のない生き方であり、つまり、他人を傷つけたり他人のdリガイ関心を決めつけたりすることへの抵抗があり、他人とオープンに対話することを求める生き方だと言えます。しかし同時に、④正直であるとは、自分自身を大切にすることであり、自分らしくあることを切望することなのです。

（池田喬（いけだたかし）『「嘘をつく」とはどういうことか』より）

注1 無垢…けがれがなく純粋であること。

注2 第二章で害説の検討をした時…この文章より前の内容のこと。

注3 辻褄の合う…筋道が通り、合うべきところがきちんと合うこと。

(一) 線部**a**～**d**について、漢字は**ひらがな**に、カタカナは**漢字**に直して書きなさい。

(二) 線部**X**「内面」と熟語の構成が同じものを、次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言語　**イ** 乗車　**ウ** 新旧　**エ** 清流

(三) 空らん（　**Ⅰ**　）・（　**Ⅱ**　）にあてはまるもっともふさわしい言葉を次の**ア**～**カ**から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら　**イ** また　**ウ** しかし
エ だから　**オ** つまり　**カ** たとえば

(四) 線部①「特別な内面性を形成し遂げている」について、

1 次のように説明しました。空らんにあてはまる言葉を、文章中から抜き出して答えなさい。

A（六字）	をもっていて、	**B（十五字）**	を働かせることができる状態。

2 これと対照的な（反対の）状態にある存在を、文章中から**十六字**で抜き出しなさい。

(五) ――線部②「嘘をつくことは他人だけでなく自分自身も苦しめる」とありますが、「嘘をつく」ことが、「自分自身を苦しめる」ことになるのはなぜですか。**六十字以内**で説明しなさい。

(六) ――線部③「裏表がないこと」とありますが、これを筆者はなんと述べていますか。文章中から**一語**で抜き出して答えなさい。

(七) ――線部④「正直であるとは、自分自身を大切にすることであり、自分らしくあることを切望すること」とありますが、「正直である」ことが、「自分らしくあることを切望する」ことになるのはなぜですか。**九十字以内**で説明しなさい。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

真乗院に、盛親注1僧都とて、やんごとなき智者ありけり。芋頭といふ物を好みて、多く食ひけり。談義の座にても、大きなる鉢にうづたかく盛りて、膝元に置きつつ、食ひながら、文をも読みけり。①患ふ事あるには、七日・二七日など、療治とて籠り居て、思ふやうに、よき芋頭を選びて、ことに多く食ひて、万の病を癒しけり。人に食はする事なし。②ただひとりのみぞ食ひける。極めて貧しかりけるに、注2師匠、死にさまに、銭二百貫と注3坊ひとつを譲りたりけるを、坊を百貫に売りて、かれこれ三万疋を芋頭の銭と定めて、京なる人に預け置きて、十貫づつ取り寄せて、芋頭を乏しからず召しけるほどに、また、他用に用ゐることなくて、その銭皆に成りにけり。「三百貫の物を貧しき身にまうけて、かく計らひける、まことに有り難き道心者なり」とぞ、人申しける。

（「徒然草」より）

注1　僧都…僧の階級の一つ。
注2　師匠…盛親僧都の師匠。
注3　坊…僧の住む建物（家）のこと。

(一)　線部「思ふやうに」を現代仮名遣いに直し、**すべてひらがな**で書きなさい。

(二)　線部①「患ふ」の意味として、次の**ア**～**エ**の中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　食事をする　　**イ**　不便がある
ウ　病気になる　　**エ**　談義をする

(三)　線部②「ただひとりのみぞ食ひける」の主語として、次の**ア**～**エ**の中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　盛親僧都　　**イ**　芋頭　　**ウ**　京なる人　　**エ**　師匠

(四)　次の会話は、本文を読んだあとに、鈴木（すずき）さんと佐藤（さとう）さんが話し合った内容の一部です。

鈴木　本文の最後にある「まことに有り難き道心者なり」とはどういうことだろう。

佐藤　意味を調べてみたよ。［　A　］ということのようだね。

鈴木　なぜ人々はそのように考えたのだろう。

佐藤　盛親僧都は師匠から［　B（四字）　］と［　C（四字）　］という財産を受け継いだのに、そのすべてを［　D（二字）　］にしか使わなかったことが、意外だと感じたからだろうね。

鈴木　なるほど。大金を手にしても一つのものにしか使わなかったことが、意外だと感じられたということなんだね。

①　［　A　］に入る適切な言葉を、次の**ア**～**エ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　本当にひどい修行僧である
イ　実にめったにいない修行僧である
ウ　決して長く生きられない修行僧である
エ　誠実できちんとした修行僧である

②　［　B　］・［　C　］・［　D　］に入る適切な言葉を、指定された字数で本文中から抜き出して書きなさい。

四　下の**【資料】**は、環境省が行った「身近な環境（水辺、緑地、大気など）に関する世論調査」の結果の一部を、グラフで表したものです。このグラフを見て、あなたの考えを次の**条件1～4**にしたがって書きなさい。

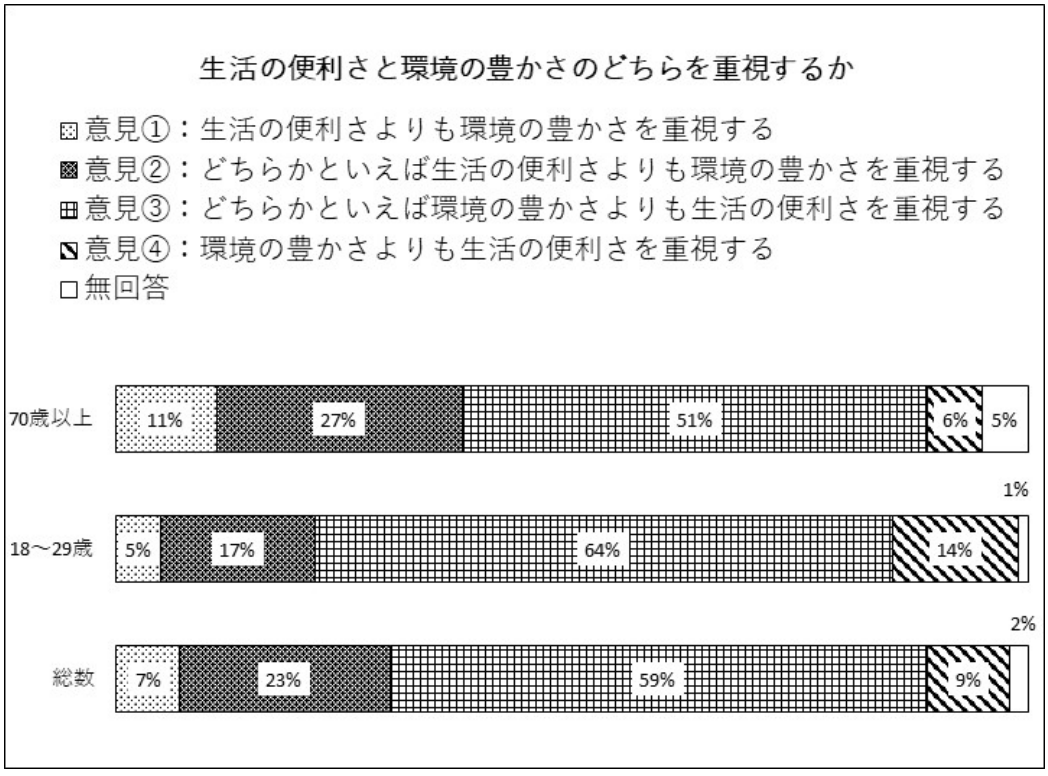
条件1　あなたは**【資料】**にある①～④のどの意見に近いか、明らかにすること。

条件2　あなたがそのように考えた理由を説明すること。

条件3　あなたの体験や知っていること、今後どういう生活を送りたいか、などの具体例を含めて書くこと。

条件4　「～だ。」「～である。」調で、二百字以内で書くこと。

【資料】



※令和六年度 環境省「身近な環境（水辺、緑地、大気など）に関する世論調査」より作成
（https://survey.gov-online.go.jp/environment/202501/r06/r06-mijikanakankyo/#sub3）